

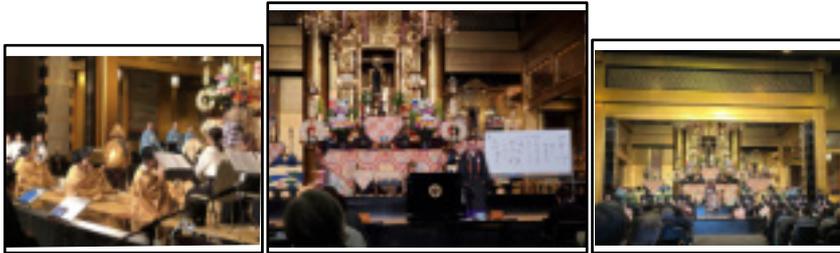
# じゅしゅう

十一月十一日より十六日までの六日間、本願寺津村別院(北御堂)におきまして報恩講が勤まつておりま

した。コロナウイルスの影響を受け、規模縮小の法要が続いておりましたが、今年の報恩講よりパワーアップして再開されました。まずは十一日にD-25報恩講として、稚児行列に始まり、小三〜二十五歳までの若者たちを中心とした法要がありました。十二日には雅楽と相愛大学音楽学部の西洋楽器とコーラスが融合しての「宗相讃仰作法(音楽法要)」が勤まりました。十三日から十六日までは以前と同じ形式となり、十五日

## 津村別院報恩講 参拝

の逮夜法要と十六日の日中法要にはご門主さまのご親修の中での法要が賑々しく



お勤まりになりました。そして、連日色々なご講師がご法話をくださり、私も法

要の出仕だけでなく、お聴聞を重ねることができました。

その中で十五日にご法話くださった加藤真悟先生は来年の春彼岸会に当山へ出講していただくお約束をしていますが、聞かせていただいた一節をご紹介します。あらゆる出来事は、私の聞き方、受け取り方によって意味が変わってきます。「一水四見」という言葉があります。同じ水を見ても四つの見え方があると例えられるのです。私たちが水を見ると飲み水であったり、草木に撒くことによつていのちを恵まれる物と見えませんが、天人には綺麗に透き通つてガラスのように見えるそう、また魚たちには住み家と見えるし、貪りの心でもつて墮ちていく餓鬼

には食べ物、飲み物が全て火に変わるため、水を見ると苦しみの炎に見えるというのです。この例えは色々な立場の中で同じものを見ても、それぞれ異なつた見え方、受け取り方をしてしまうという事です。逆に言えば、自分の受け取り方が正しいのだと固執することによつて、実は本当の見え方ができていないのかもしれない。「いのち」が当たり前にあるのか、それともお陰さまで今日のいのちをいただいていると受け取るのかによつて、人生の豊かさが変わってくるかもしれません。そんなことに気づかせる、変わらせてゆくはたらきを持つているのがお念仏なのだとお話しになつておられました。

第56号  
(通算396号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

### 浄覚寺ヨガ教室

- ・12月20日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆今年最後のヨガ教室です。プレゼントを用意していますので、お誘い合わせてご参加ください。

手を打てば

鳥は飛び立つ

魚寄る

女中茶を持つ

猿沢の池



# 御文章に聞く(第49回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。前回は八万の法蔵章の中の「愚者と智者」という言葉を読ませていただきました。それと共に「後世をしろ」ということが愚者と智者を分けるポイントだと気づかされます。今月はその言葉を深めていきたいと思えます。

**八万の法蔵章(五帖第二通)**  
 それ、八万の法蔵をしろというとも・後世をしろざる人を愚者とす、たとい一文不知の尼入道なりというとも・後世をしろと智者とすといえり、しかれば当流のころは・あながちにもろもろの聖教をよみ、ものをしりたりというとも・一念の信心のいわれをしろざる人は・いたざらごとなりとしるべし、

「後世」とは「後の世」のことで、「後生」と同じ意味として使われます。「後生」という言葉は、つい死んでから先のことと思われがちです。ですから現代社会では消極的な印象を受けやすいことは否定できません。しかし、それは生きることのみ意義を見出し、死を無意味としか考えられない発想によるものではないでしょうか。あらためて考えるべきと思えます。

浄土真宗では、ご信心をたまわった者は、必ず浄土に往生するといわれます。この仏さまの言葉に依ると、私は浄土につながった人生を生きていると気づかせていただきます。それが阿彌陀仏の本願だったのです。すなわち阿彌陀仏が私に願われた真の生き方であったということなのです。それは私の人生の真の目標を教えられた言葉でもあったのです。

# 仏教語辞典



**焰口餓鬼**  
 道教の面燃大士という神とも、観音菩薩の化身ともいわれている。釈迦さまの弟子である阿難が一人でいると、鬼が現れ、供物をしないうる。吐く餓鬼が現れ、供物をしないうる。三日後に死ぬだろうと言われ、去つていった。困った阿難はお釈迦さまに供養法を相談して実践したところ、命を救われた。それから施餓鬼という行事が生まれた。

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

## 編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。今年の行事も冬のことも会を残すのみとなりました。しばらく休んでいたお餅つきを復活させようと思えます。ぜひご参加くださいませ。

十一月は思ったより忙しくなりました。川辺専龍寺さまの記念法要、津村別院の報恩講が一周間、長吉小学校の創立百五十周年に、雅楽の演奏会と続きました。それ以外にも葬儀や日常の月忌参り、毎週の雅楽の授業も受け持っております。もちろん、日々の寺務作業もありますので、あつという間に一ヶ月が過ぎました。その中でも長吉小学校の創立百五十周年は約二年半前から準備を始め、それぞれが担当を十分にこなし、手作りのすばらしい式典と祝賀会になりました。浄覚寺も地域のふるさとになるべく、思いを新たに持つことができました。(釋法道)

## 1月

**行事案内**

日時・十二月十七日(日)  
 午前十時～午後四時  
 行事・浄覚寺こども会冬のついで  
 場所・長原浄覚寺 詳細は別紙にて  
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

・令和六年一月一日(祝) 十四時より  
 元旦会 法話 寺西覚水先生(節談説教)

・一月十四日(日) 十四時より  
 浄覚寺仏教婦人会総会(会員のみ)